

(上野遊水地を有効に生かす為に)

2011年1月20日

(11.1.18改訂版)

自然愛・環境問題研究所

代表 浅野隆彦

1) はじめに

上野遊水地に関しては、2004年以降、淀川水系流域委員会に対し幾つかの「治水関連意見書」を送り、『その現計画を見直し「洪水ハイピークカット機能」に特化させるべきであり、そうすれば非常に目覚しい「洪水防御効果」を実現させる事が出来、川上ダムは無用である。』と提言をして来た。(一般意見 NO.492 《川上ダム治水無用論》他)

その後、第71回委員会は一般傍聴者(今本博健氏)からの意見 = No.033「上野遊水地の機能について」を元に、河川管理者側に『そのような対策をすれば、川上ダムを建設しなくとも、戦後最大洪水時の岩倉地点流量を「自然流量(2,700m³/s)」以下に出来るのではないか?』と質問をした。

これに対する回答は、第72回委員会(2008年2月11日)に「審議参考資料3」として提出され、説明と議論がなされた。

以下に関連する重要資料を示す。[(a)及び (c)は未入手]

- * 「平成19年度 上野遊水地模型実験業務」報告書((株)建設技術研究所) (a)
- * 「平成19年度 淀川水系河川整備計画基本方針に基づく木津川上流河道検討業務」報告書 (b)
- * 「上野遊水地の越流堤について」(第72回委員会・審議参考資料3)
- * 「平成20年10月16日 淀川水系河川整備計画策定に関する意見書」
- * 「平成21年度 上野遊水地湛水解析業務」報告書((株)建設技術研究所) (c)

今般、「伊賀・水と緑の会」の「上野遊水地の諸元」に関する質問に対し、木津川上流河川事務所から、下記のような回答がなされたとの事である。

「上野遊水地の諸元について」

1. 越流頻度を10年に1度以下とする。
2. 100年に1度発生する洪水に対して、上野地区に浸水被害をおこさない。
3. 木津川下流域において、整備計画に定めた流量若しくは自然流量(遊水地整備前の状態)以下にすること。
4. 越流堤高さ E.L 134.4m 4遊水地共、同時越流とする為に同じ高さとする。
5. 越流堤長さ 新居 = 100m、小田 = 130m、木興 = 110m、長田 = 80m
(各遊水地容量の違いに応じて設定している。)

6. 越流堤の法勾配は、1:2、天端幅は5.5m以上にする。

2) 重要問題点とする事

1. 何が「自然流量」か？

これに対する国土交通省近畿地方整備局河川部の苦しい意見は、つまるところ「上野遊水地の越流堤について」(第72回委員会・審議参考資料3)の2ページ、「2. 遊水地の効率的利用の検討 (1) 検討の趣旨」(以下に示す)に如実に現れている。

2. 遊水地の効率的利用の検討

(1) 検討の主旨

- ・ 上野地区の治水対策においては、上野地区の浸水被害の解消を行い、あわせて上下流バランスの観点から岩倉地点の流量を自然状態の流量以下とすることが必要である。
- ・ したがって、水位を計画高水位より低い自然状態での水位(計画高水位より80cm程度低い水位)以下に抑える必要がある。
- ・ そのため、上野遊水地の容量のうち洪水調節に有効に利用できる容量は、この計画高水位より約80cm低い水位程度までの容量であり、この容量は約700万m³程度である。
- ・ 遊水地の容量については計画高水位までの容量が約900万m³であり、水位を計画高水位より低い自然状態での水位以下に抑えた場合は、遊水地容量の全量を有効に使用することはできない。
- ・ 計画高水位までの容量は約900万m³あるため、岩倉地点の水位を計画高水位より約80cm低い水位以下に抑えたうえで、この容量を有効に利用できる方法を検討する。

(図-3参照)

注) この計算は模式的に考えた場合の概算値である。

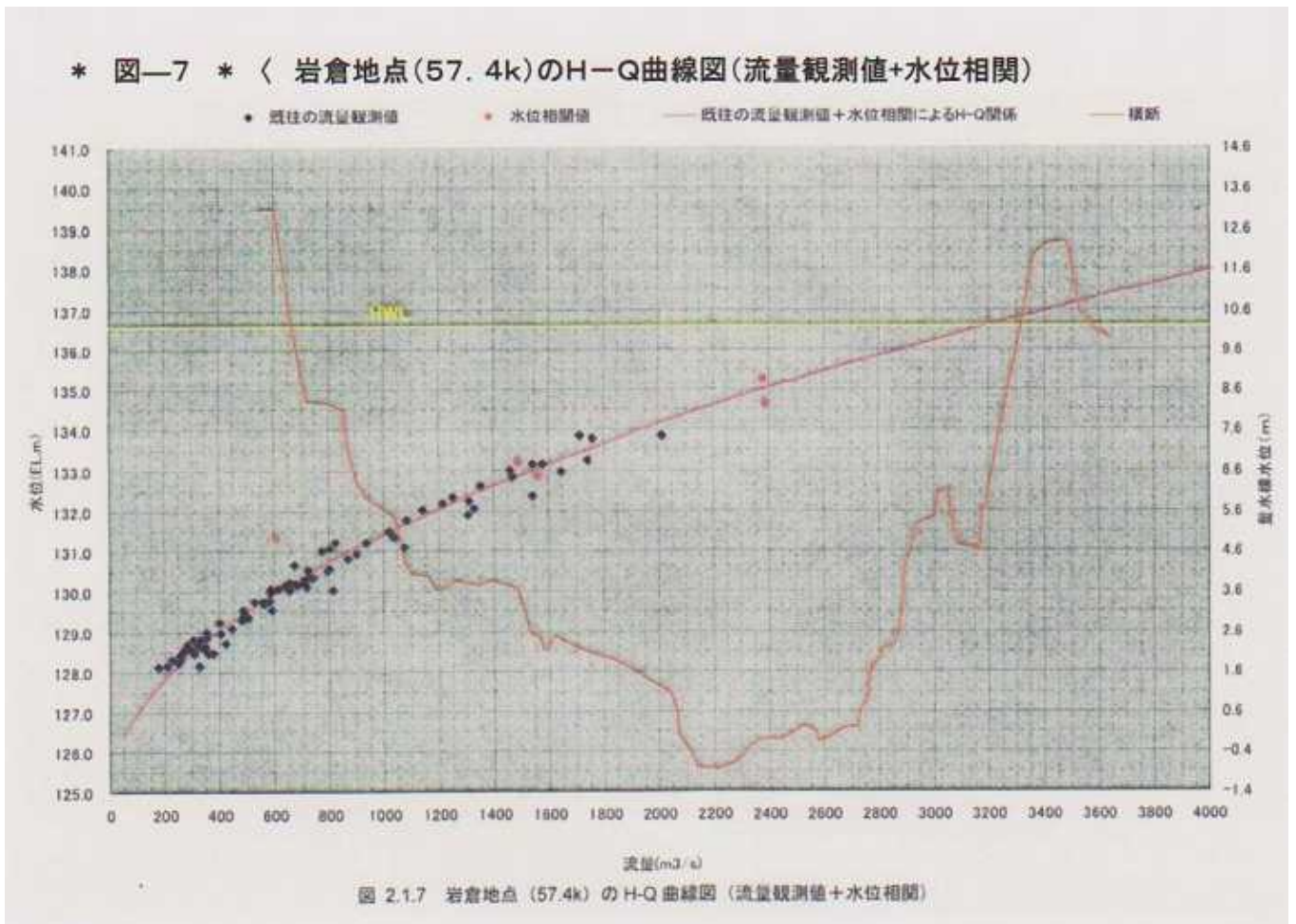
「上野地区の治水対策においては、上野地区の浸水被害の解消を行い、あわせて上下流バランスの観点から岩倉地点の流量を自然状態の流量以下とすることが必要である。」と述べているが、「自然状態の流量」(遊水地整備前の状態)なるものを、根拠なく「岩倉地点(57.4k)HWL 流量2,700m³/s」と昔から言い続けて来たのである。

その後の私の追及や淀川水系流域委員会の審議を経て、ようやく「岩倉地点(57.4k)HWL 現況(河川改修なし+遊水地整備なしの時)流量3,100m³/s」を認めていたが、今度は「自然流量=2,700m³/s」を使い出したのである。この「自然流量に抑える為、計画高水位より0.8m程度低い水位以下に流れを抑えなければならない。」とも言っているのである。

この不自然な、訳が分からぬ「上下流バランス」論が詭弁なのであって、普通に自然に「3,100m³/s流れる」のに、2,700m³/sに抑える事が、逆に上流側に「無理な負担」を押し付ける事になるが、一体全体！このアンバランスを公平というつもりな

のであろうか？「上流側」にしてみれば、上野遊水地を受入れる犠牲を払い、下流部への流量を減らす貢献をしている筈なのに、『400 m³/s以上に及ぶ「逆流」を受け止めると言うのか！』と怒り心頭の思いであろう。

しかも、次なる最新の河道調査「平成19年度 淀川水系河川整備計画基本方針に基づく木津川上流河道検討業務」が行なわれ、図 - 7として次頁に示すように「岩倉地点(57.4k)HWL 流量3,200 m³/s」が明らかになったのであった。これは同地点の「計画高水位(HWL)E.L136.59m 現況(河川改修なし+遊水地整備前)」に於ける既往の流量観測値+水位相関による H-Q 関係として、具体的には詳細な「河道粗度係数調査」を含む綿密な検討の結果として出されたものである。



興「自然流量」は、「岩倉地点(57.4k)HWL3,200 m³/s」としなければならない。

2. 効率の良い遊水地機能はどうすれば出来るか？

『900万m³の貯水容量をフルに活かすべき』とするのが、筆者の提案である。幾つかの条件をクリアーしていかなばならない。

越流堤の高さ及びその機能は、ハイピークカットを実現し、超過洪水にも効果を上げ

るように考えなければならない。それには、次の と と を実現する必要がある。

越流堤は周辺の計画高水位に限りなく近い高さに設定すると共に貯水容量9、000、000 m³ を満たさなければならない。その高さは、{「遊水地の容量」÷「遊水地全面積」} + 「遊水地の平均底面高さ」で求める。

$\{9,000,000(\text{m}^3) \div 2,485,000(\text{m}^2)\} + 133.16(\text{m}) = 136.78$
豊136.8m(これを最低参考値とし、各遊水地の越流堤位置に於ける HWL - 0.3 m程度を堤高とする。)

偏りなく、効率良く越流させる為にも、4遊水地全てにほぼ同水位に安定して導入する仕組みが必要である。合流部下流、「高倉大橋」と「新高倉大橋」の間に、「ゴム堰」又は、鋼鉄製可動堰を設置し、どちらの支流からも合流した一定以上の流量を超える洪水を受け止め、両支川の水位を同時に同様の高さに上昇させるものとする。上、下流及び4遊水地のパラメーターからの水位情報を得て、「越流或いはそのまま流下」の堰操作を行なう。この事により、「遊水地湛水になる事例」は100年に一度以下位に下るであろう。

越流堤長さは、大洪水時に於いても越流衝撃力を抑えられるように各平均1、000mにする事は、HWL 以下に水位を抑える為にも有効であろう。1,200 m³/s 平均の越流が得られる事になる。1 時間にすれば、432万 m³ である。これがハイピークカットとして大きな働きがある。以上のような機能にして置けば、二山洪水にも有効であり、前線型集中豪雨の「120 mm/h・300 mm/3h」位なら「外水氾濫」は完全に防げるであろう。

但し、山地の土石流災害は別だが・・・。

この意見書の結論は、1. 木津川上流「岩倉地点(57.4k)HWL 現況(河川改修なし + 遊水地整備前)流量3,200 m³/s」が「自然流量」であり、「島ヶ原地点計画高水量3,700 m³/s」は残流域分を加えても越える事はない。川上ダム建設を狙って、詭弁的「上下流のバランス」論から、「自然流量2,700 m³/s」とする事は、自然河川の実態を無視し、上流側に不公平を強いるものである。その上、遊水地が整備される事で下流に対する洪水流量が大きく軽減され、被災頻度が激減する事を隠蔽してはならない。

2. 現在検討中の「上野遊水地の越流堤諸元」は、上記の趣旨に反し、「川上ダム建設ありき」の為にする悪意ある発想の元に進んで来たものである。今般回答の内容も、「川上ダム建設ありき」から脱却出来ておらず、不合理極まりないものである。

3. 本文の「2. 効率の良い遊水地機能はどうすれば出来るか？」で述べた通り、合流部直下「高倉大橋」と「新高倉大橋」の間に、「ゴム堰」又は鋼鉄製可動堰を加えたシ

ステムで、越流堤高さを各遊水地とも「最低参考値 E.L136.8m以上、越流堤横 HWL - 0.3m程度」とし、長さは全て出来る限り1,000mとする事でハイピークカットの大きな働きが生まれる。これが最も優れた効率の良い上野遊水地の機能である。

これにより、下流部全域の水位低下が保障出来るので、全く「川上ダム」はお呼びでない。

4. 遊水地整備、河川改修による「流量増200m³/s」を抑える為とする川上ダムの洪水調節容量は、全く不要である。河川改修は既存計画以外に、岩倉地点右岸の岩倉大橋北詰め内堤部地盤を嵩上げ補強する事が望ましい。